

俗耳談

市川寬齋口談
杉山九亮筆

三篇卷三

特別
15
1420
8



わらへ

一 福極安の院 趙宗の何さむの詩人の安は 隆平の徳
皆宋人の始り、但先人は素天と云ふより、あはれ人の
これと云ふは、是より多きヤ米たんの詩と評せし事言ふ
玄引即康節題云嘉祐八年冬十一月京師有道
人遊下于市莫知所從來、見體古怪、不與常類、飲
酒無算、未嘗覺醉、都人士異之、相與誼傳、好事者
隨同、其狀後進侍、帝引見、賜酒一石、飲及七斗、
次日、司天臺奏、壽星臨帝座、忽失道人所在、仁宗

嘉嘆久之、聞世之所、實壽星圖、不知其幾、不過俯
毫、拜鶴松栢、恭錯物飾、鮮廉而已、仁宗時、天下熙
熙、舞物、不春、宜乎、壽星遊戲人間、躬見于帝也、細
書曰、章聖二年、有尺長三尺許、身首幾相半、云、向
は、多、信、より、曰、既、か、の、や、ら、ふ、と、云、ふ、と、曰、安、は、と、云
あり、曰、何、を、真、き、ん、司、天、免、傷、奏、す、是、漢、世、懷、星、五
百、甲、の内、に、聚、る、と、客、を、音、た、と、れ、う、と、子、の、あ、れ、
細、れ、も、あ、れ、あ、れ、と、う、信、と、云、ふ、天、の、座、を、異、人、に
亦、付、よ、あ、り、と、く、し、あ、れ、と、異、と、い、い、ん、。

人のあはれいしき色もあはれいしき心もあはれいしき
あはれいしき色もあはれいしき心もあはれいしき
あはれいしき色もあはれいしき心もあはれいしき
あはれいしき色もあはれいしき心もあはれいしき
あはれいしき色もあはれいしき心もあはれいしき
あはれいしき色もあはれいしき心もあはれいしき
あはれいしき色もあはれいしき心もあはれいしき
あはれいしき色もあはれいしき心もあはれいしき
あはれいしき色もあはれいしき心もあはれいしき
あはれいしき色もあはれいしき心もあはれいしき

乃人信也... 他々の信... 亦何と
意いし押合

一 大和知原子載すを彼せを糸の糸風をそ彼理人物禽
就中多きまを多し歎す... 日知奇... 亦いしやをそり
ゆいしよ... の物世のう怪... 中... 亦いしやをそり
事文類聚前集引零陵志云石屏出零陽白鶴山
紹興壬午間有宗子邑居一日艤舟山下於水中
得一石光采獨異其紋若峯岳聳秀渾然天成自
是石工鑿取益多烟雲雪月之景波瀾龍鳳之象

隱也、可觀大者方廣可四五尺、雖巧益者、天孫其
州、又續集引劇談錄云、李德裕東都平泉莊、去洛
城三十里、以向行逕、有平石以手磨、皆隱、
見雲霞龍鳳草樹之形、これ石滑、龍鳳を磨ると一
現、うりあと、五敷、百中の物、これす、如く、
秋状々、うりあ、よ、さ、う、う、う、う、う、う、
の、ほ、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、
物、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
一向田界、ゆるり、お、せ、い、事、と、お、ま、利、行、の、ま、ま、の、州、は、

一のや、い、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
田中、よ、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、く、
あ、せ、ん、田、の、界、ま、り、う、り、れ、ぬ、と、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
の、う、ら、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ハ、畔、く、ら、の、陸、と、あ、け、わ、ち、う、う、う、陸、ま、ま、
也、畔、也、と、埒、と、畔、と、あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
一、按、物、部、法、竹、屋、ま、不、川、也、郡、引、古、事、記、皇、孫、本、紀、

食以六穀地産也所以作陽德故居左美以六牲

為主天産也所以作陰德故居右前後之文其介

け可れ彼左滴右滴花法と今より自他のより

一庸作人の名を知りて其を其のより自他かの

と定つてヤハじちを同知及びより其の二を

と存す同知及びといふは其の文より其の

すなりといふは其の文より其の

一むとふ初より自より初より自の各に

一むとふ初より自より初より自の各に

吾々の女約遊かるといふを周とこれといふは

といふの字と去と却陳端と史せうかるといふ

一南向の極と續むは行のふ史作といふは

補附はと續むは史作の下列文飲通より及え史

隣るは又川吾子偏云は隣朝解今これより

行のより直小女直より其の四なり其後

一云云挹毒在夫餘東北千餘里又晋書曰在不咸山

北去夫餘可六十日といふは其の史作

あり但後漢云南与北は但接是より

る筆の也此のよりさす申葉かお像の趣多未詳と
知る且近類偏とく又悉く某昔一の日記の地圖と
見る吾わ列の事かと信法と接しあふと近江と接する
し列亦としあうものありてありしと云す
印のその隣接とすも况懸海人の因りたる地は
席上ふふと大ふふふとの深く求むるも好し

一 自己の拙子此よりその考の字とありはつるやうなれもこし
華例偶々う雅林伏山の巻首書一と曰進賢振凡書克
再著と伏山の揚用信の拙き又類書ふれりる集と

かゝるやうな是くも一 狹一頁標嚴往卷首書一と
曰長水沙門子璿集い集とらるはたり書とらるの類
くくく遠例をいとわく

一 問標蕭と何の戯と曰石坪中華ととい絶るありと
とくく但これ亦戯の史えりある 宋顔師伯為侍
中孝武と標蕭帝得雄大悦謂必勝師伯後得盧
帝失色師伯遽斂手曰帝得盧乎曰師伯一輸百
可又宋劉毅於東府聚標蕭大擲一判應至教百
可俱か史ありい戲劉宋の智よりわく

天子これ既とていふ。只変り双六ヤリのみ也。も而方とよふとん
れの大ばらりしてそのしけ情を既り。も怪む。一也。是を
お雄盧とよふ。そのも中標。蕭多う向く情。ちり。その久。既
情。ちり。ん。老子。標。蕭の。敵。と。化。る。と。あ。る。と。ん。か。は。是。の。標。
蕭。多。う。け。り。の。し。ち。か。う。さ。る。と。の。も。

一向を人として天命と爲る。又子命。命。命。と。子。今。及。ん。者。子。れ。

宣原六也。丙子三月十日。再書。

ま。り。田。何。と。知。ん。某。其。之。也。

命といふ。命。又。子。命。他。又。一。を。劉。蕢。策。自。所。
謂。命。者。死。生。焉。貴。賤。焉。貧。富。焉。治。乱。焉。禍。福。焉。此。

十者天之所賦也。これ皆人のこと。する。不。也。乃。て。を。り。
賦。り。也。命。と。い。つ。と。他。何。と。い。え。命。人。の。名。と。
命。人。の。名。と。い。つ。

天子これ既とて... 只変り双六ヤリのみ也... 一モ百方とよふとん
れい大はらりして... け情を脱る... ち怪む... 地を
お雄盧とよみ... 中標... 向く情... 之
情... 老子標... 敵と化ると... 之... 標
情... け... 一... 之

一向... 天子... 又子... 今... 其... 命... 富... 禍... 福... 此

十者天之所賦也... 此... 之... 乃... 賦... 命... 富... 禍... 福... 此



